

施策の展開（個別方策）の骨子案について

（１）認知症の本人の活動について

- ①すべての人が認知症を正しく理解し適切に対応できる環境づくり
- ②認知症の人の就労、社会参加の支援の強化
- ③若年性認知症施策の強化

（２）認知症の本人・家族を支える地域の体制について

- ①＜早期発見・早期鑑別診断・早期対応＞ができる体制づくり
- ②地域での日常生活におけるバリアフリー化の推進
- ③相談体制の整備等
- ④家族・介護者等への支援の強化
- ⑤認知症の人の意思決定の支援及び権利擁護の保護

（３）医療・介護提供体制について

- ①とぎれない医療・介護サービスが受けられる仕組みづくり
 - ◇とぎれない医療体制づくり
 - ◇とぎれない介護サービス体制づくり
 - ◇医療と介護の連携強化
 - ◇人生の最終段階に向けた支援
- ②新興感染症への対応

新・京都式オレンジプラン改定後計画の項目イメージ（案）

現行計画	新計画	（参考）認知症基本法案	備考
はじめに	はじめに		
1 プランが目指す社会の姿 ～10のアイメッセージ～	1 プランが目指す社会の姿 ～10のアイメッセージ～		
2 高齢者の現状と将来推計	2 高齢者の現状と将来推計		最新の数値等を反映
3 京都式オレンジプランの取組状況	3 新・京都式オレンジプランの取組状況 (オレンジ指標や定量的データをもとに評価)		現行計画策定後の新規事業も含めて紹介
4 認知症の人や家族、支援者から見た評価・課題	4 認知症の人や家族、支援者から見た評価・課題		評価結果の反映
(1) 10のアイメッセージの評価～「目指す社会」にどれだけ近づけたか～ (2) 本人ミーティングで寄せられた声	・10のアイメッセージ評価結果 ・本人・家族ミーティングの結果まとめ		本人・家族ミーティングのまとめ
5 プラン改定にあたっての視点	5 プラン改定にあたっての視点		10のアイメッセージ実現のための重点課題（各部会の内容も反映）
6 施策の展開	6 施策の展開		
	共通方策		
個別方策	個別方策	(1) 認知症の本人に関する国民の理解の増進等	<ul style="list-style-type: none"> ・柱の点検を行う ・総点検（106項目）を行い、修正や追加・削除を行う ・各部会での内容を反映し、新規項目の追加等を行う
		(2) 認知症の人の生活におけるバリアフリー化の推進	
		(3) 認知症の人の社会参加の機会の確保等	
		(4) 認知症の人の意思決定の支援及び権利擁護の保護	
		(5) 保健医療サービス及び福祉サービスの提供体制の整備等	
		(6) 相談体制の整備等	
(7) 研究等の推進			
(8) 認知症の予防等			
(1) すべての人が認知症を正しく理解し適切に対応できる環境づくり	(1) 認知症の本人の活動について (主なテーマ) 本人発信支援・社会参加/若年性認知症/認知症バリアフリー/その他		
(2) <早期発見・早期鑑別診断・早期対応>ができる体制づくり	(2) 認知症の本人・家族を支える地域の体制について (主なテーマ) 本人発信支援・社会参加/認知症バリアフリー/家族支援/その他		
(3) とぎれない医療・介護サービスが受けられる仕組みづくり	(3) 医療・介護提供体制について (主なテーマ) 新型コロナウイルス等の新興感染症への対応/身体合併症/その他		
(4) 地域での日常生活や就労、社会参加等の支援の強化			
(5) 家族・介護者等への支援の強化			
(6) 若年性認知症施策の強化			
共通方策	共通方策		
～6つの個別方策を推進するための方策～			
7 新・京都式オレンジプランの評価・検証	7 新プランの指標		新たな指標を掲げる
	8 コラム・事例集など 【内容】 ・認知症応援大使（大使照会、活動の様子） ・先進的な認知症カフェの取組 ・当事者の社会参加の取組（チームオレンジなど） ・異業種連携協議会の取組 ・コロナ関連（第3部会で意見等のエピソードまとめ） ・若年性認知症支援コーディネーターの活動紹介 ・普及啓発の取組（つなげ隊など）		<ul style="list-style-type: none"> ・各部会の検討結果のうち上記6とは別でコラムとして記載 (当事者や家族の思い、コロナの経験、新たなトピック など) ・府内各地の先進事例を記載 (当事者グループの活動や認知症カフェ、企業の取組 など)
資料編（圏域別データ等、用語解説、検討経過、委員名簿）	資料編（圏域別データ等、用語解説、検討経過、委員名簿）		

ロジックモデル（認知症対策）

項番	個別施策
----	------

1	すべての人が認知症を正しく理解し適切に対応できる環境づくり
	指標 認知症サポーターの養成
	指標 京都高齢者あんしんサポート企業の登録拡大
	指標 京都認知症応援大使等当事者による発信機会の拡大
	指標 チームオレンジの設置促進
	指標 認知症介護実践者研修の実施
	指標 認知症対応力向上研修の実施
指標 認知症予防に関する正しい理解の促進	

2	認知症の人の就労、社会参加の支援の強化
	指標 認知症カフェの設置拡大
	指標 認知症本人ミーティングの開催促進

3	若年性認知症施策の強化
	指標 支援者のための若年性認知症研修の実施
	指標 若年性認知症コールセンターの運営
	指標 認知症疾患医療センターにおける若年認知症支援事例の共有
	指標 圏域ごとの研修会や事例検討会の実施

1	早期発見・早期鑑別診断・早期対応ができる体制づくり
	指標 認知症初期集中支援チームによる支援の充実
	指標 認知症サポート医の養成

2	地域での日常生活におけるバリアフリー化の推進
	指標 認知症サポーターの養成（再掲）
	指標 京都高齢者あんしんサポート企業の登録拡大（再掲）
	指標 異業種連携協議会によるモノやサービス創出支援
	指標 チームオレンジの設置促進（再掲）

3	相談体制の整備等
	指標 認知症カフェの設置拡大（再掲）
	指標 ピアサポートの実施

4	家族・介護者等への支援の強化
	指標 認知症疾患医療センターにおける本人・家族教室の開催

5	認知症の人の意思決定の支援及び権利擁護の保護
	指標 認知症の人の生活に関わる関係者の意思決定支援スキルの向上

1	とぎれない医療・介護サービスが受けられる仕組みづくり
	指標 京都認知症総合センターの取組支援

項番	中間アウトカム
----	---------

1	認知症の本人の活動に対する支援
	指標 認知症の本人の社会参加支援、普及啓発を通じて、認知症に対する社会のイメージを変える

2	認知症の本人・家族を支える地域体制の構築
	指標 診断直後から認知症の本人・家族に寄り添った支援の充実

3	医療提供体制の構築
	指標 状態や環境が変わってもとぎれずに医療・介護サービスを受けられる医療・介護連携体制の構築

項番	分野アウトカム
----	---------

1	認知症になっても、本人の意思が尊重され、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる社会の実現
	指標 認知症になっても、本人の意思が尊重され、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができていると考える認知症当事者の割合

保健医療計画の見直しに関する調書

項目	第3章	健康づくりから医療 介護まで切れ目のない保健医療サービスの提供
	2	特に広範かつ継続的な医療の提供が必要な疾病に係る対策
	(6)	認知症
現計画における施策の効果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 認知症サポーター数（人） 319,905人 ※目標値は280,000人のため達成済み ○ 認知症サポート医数（人） 247人 ※目標値は186人のため達成済み ○ 認知症対応力向上研修修了者数（延べ人数） かかりつけ医2,710人、歯科医師509人、薬剤師1,244人、看護職員564人、 一般病院勤務の医療従事者7,104人 ※目標値はかかりつけ医2,220人、歯科医師470人、薬剤師900人、看護職員440人、 一般病院勤務の医療従事者6,300人のため達成済み ○ 京都高齢者あんしんサポート企業数（事業所） 3,705事業所 ※目標値は3,500事業所のため達成済み ○ 認知症カフェ数（カ所） 162カ所 ※目標値は150カ所のため達成済み ○ 支援者のための若年性認知症研修受講者数（延べ人数） 3,279人 ※目標値は1,800人のため達成済み ○ 京都認知症総合センター・ケアセンター（カ所） 2カ所 ※目標値は各圏域に1カ所整備 ○ 認知症リンクワーカー（人） 245人 ※目標値は230人のため達成済み 	
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 認知症に対する一般的な理解を進めるための効果的な普及啓発活動を推進するとともに、認知症の人の社会参加のニーズに対応する必要がある。 ○ 若年性認知症の人や家族が、就労や経済的課題について相談し、支援に繋がることのできる体制の一層の強化が必要である。 ○ 認知症バリアフリーの実現のため、地域住民や事業所が認知症の人や家族の日常生活を支える仕組みづくりが必要である。 ○ 診断直後から適切な医療・介護サービスに繋ぐことのできる体制づくり、医療・介護連携強化が必要である。 	
対策の方向性	<p>【目指す方向（府民の状態）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 認知症になっても、本人の意思が尊重され、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる社会が実現できている。 <p>【目標（必要となる体制整備・医療サービス等、取組の方向性）】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 認知症の本人の活動に対する支援 ② 認知症の本人・家族を支える地域体制の構築 ③ 医療提供体制の構築 <p>【具体的な施策】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 認知症の本人の活動に対する支援 <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症サポーターの養成 ・ 京都高齢者あんしんサポート企業登録の拡大 ・ 京都認知症応援大使等当事者による発信機会の拡大 ・ チームオレンジの設置促進 ・ 認知症介護実践者研修の実施 	

- ・ 認知症対応力向上研修の実施
- ・ 認知症予防に関する正しい理解の促進
- ・ 認知症カフェの設置拡大
- ・ 認知症本人ミーティングの実施
- ・ 支援者のための若年性認知症研修受講者数
- ・ 認知症疾患医療センターにおける若年性認知症支援事例の共有
- ・ 圏域ごとの若年性認知症に係る研修会や事例検討会の実施

② 認知症の本人・家族を支える地域体制の構築

- ・ 認知症初期集中支援チームによる支援の充実
- ・ 認知症サポート医の養成
- ・ 認知症サポーターの養成
- ・ 京都高齢者あんしんサポート企業登録の拡大
- ・ 異業種連携協議会によるモノやサービス創出支援
- ・ チームオレンジの設置促進
- ・ 認知症カフェの設置
- ・ ピアサポートの実施
- ・ 認知症疾患医療センターにおける本人・家族教室の開催
- ・ 認知症の人の生活に関わる関係者の意思決定支援スキルの向上

③ 医療提供体制の構築

- ・ 京都認知症総合センターの取組支援

※新・京都式オレンジプラン（2018～2023）の改定について、現在、認知症総合対策推進PT改定検討ワーキングにおいて検討中であり、11月に中間案、1月に最終案を提出予定。